

I.T.社会システム学科・2年次

I. 留学レポート

①協定留学を目指した理由

大学に入学した後すぐに立てた卒業するまでの目標の一つが留学をすることでした。私は、現代社会学部であり、留学する人が少ないということは知っていましたが、「自分のやりたいことをやる」と「不可能なことはない」という強い意志をもって、留学を目指していました。英語は大学1年生の時から真剣に勉強し始めて、毎日30分ほどコツコツ勉強していました。私は、英語が最初から得意な方ではありませんでした。でも、人と話すことは大好きで、英語はコミュニケーションのツールとして学びたいといつからか心の中で感じていました。私は、幸運にも外国人の友達が多く、その友達たちが、アメリカへの留学を後押ししてくれました。みんなが口をそろえて言っていたのが、「あなたは、決して英語が完璧なわけじゃないけど、いつもどうにか英語で自分を表現できる。臆病にならず、間違いを恐れず、努力を惜しまない人だから、留学から得られるものは多いだろう。」でした。考えてみると、私は英語のCASEのクラスの時は、いつも一番に手を挙げていた生徒でしたが、よく当てずっぽうのことを言っていたし、発音も度々先生から直されていましたが、あまり気にせず自信を持って英語を話していました。外国の友達にも、よく手紙を書いたり、Skypeで話したりしていましたが、私の英語がペラペラだったわけではなくて、違う国で育った違う価値観をもった人とつながるのがただ楽しくて必死に辞書を使いながら話していました。私は、持って生まれた能力はありませんでしたが、やる気と努力で英語を勉強していました。英語がもっとうまくなり、そしてもっと色々な人と英語で話したいというのが、やはり留学をしたいと目標に立てた大きな理由です。私が今思うに、私は誰よりも英語が好きだったのかもしれませんが、だから、留学をするという目標を果たせました。

②留学を目指してから出願までの英語学習方法

私は、とにかくにもTOEFL iBTかTOEFL ITPである程度のスコアをゲットしなければなりません。私は、英語の授業としてCASE中級をとっていました。正直、私の学科（社会システム）の授業で、英語中心に学ぶことはできないので、自分で過去問をひたすら問っていました。TOEICの講座もありましたが私は行かず、自主勉強が多かったように感じます。他にも、よく洋楽を聴いたり、映画を観たりしていました。私は、リスニングが苦手な耳を鍛える必要があったので、なるべく何度も何度も同じ曲を聴いて英語の聞き取りの練習をしました。もちろん、リスニングの問題集もしましたが、それだけでは退屈に思ってしまうので、自分の好きな音楽や映画を使って勉強していました。私がおすす

めするのが、ジブリの映画を英語で英語の字幕をつけて観ることです。そんなに難しい英語の言い回しが無いし、物語をよく知っているので、英語でも苦なく観ることができると思います。私は、ジブリの他にもシンデレラや美女と野獣などのディズニー映画も同じように英語で英語の字幕をつけて観ていました。後は、外国人の友達と英語で話して、会話の練習をしました。特に、オーストラリアの友達に助けられました。気を抜きながら、楽しみながら、コツコツ勉強していました。

③留学決定から出発までの準備期間

留学決定してからも英語の勉強は継続していました。オーストラリアや、カナダの友達と話す機会も増やしながら、調整していました。また、ビザの申請は、早めに取り掛かったのが良かったです。予防接種は、時間がかかるので大変です。何事も先ず、早めにするのが大切です。私の場合、母にビザの申請を少し手伝ってもらったのですが、自分ですべてすべきだったと後悔しています。自分で責任を持って、準備をしなければなりません。

④現地到着後

到着後、3時間かけて大学に向かいました。大学の車がピックアップしてくれたので、心配することなく、大学に着くことができました。オリエンテーションがあった1週目が一番忙しくて幸せな時間でした。あれよあれよと、オリエンテーションが進んでいって、疲れがたまってしまう。オリエンテーションでは、基本的な大学の説明や銀行の口座を作りました。分からないこともあると思うので、その時は質問しながらオリエンテーションを終えることができました。この時が、友達を作る大きなチャンスになりました。この週で、仲良くなった子とは、帰国するまで仲良くいい関係を築くことができました。恥ずかしがらず、どんどん話しかけていったのが良かったみたいです。

⑤語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

◆授業内容、課題、試験

私は、正規履修と同時進行でESLの授業も秋学期履修しました。2つの授業をELC(English Language Center)で履修しました。まず、Speaking and Listening classです。2度の大きなプレゼンテーションや、ラジオのニュースを聞きながら受けるリスニングテストなどがありました。また、American studiesでは、アメリカではどのような価値観や文化を持っているのか学びました。インタビュープロジェクトがあったり、ディスカッションがあったりと盛りだくさんの授業でした。ESLでは、基本的な会話であったり、英語をのぼすことができました。

⑥正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

◆履修科目

大学で履修した授業は、小規模のクラスで教授がとても良かったです。履修する時には、アドバイザーが一人一人いて、分からないことがあれば何でも教えてもらえたので難しい

ように感じませんでした。また、アドバイザーの意見だけではなく、友達の見解を聞くことが大切だと思います。私は、**political science** のクラスが履修しなかったため、**political science** のクラスを取っているアフガニスタン人の友達にどの教授の授業がおすすめなのか、それとどういったクラス展開を教授がするのかを聞きながら授業を取りました。課題が多いので、クラスを取りすぎず、自分に合った授業を選択しなければなりません。

・ **Business Ethics (PH 251)**

仲の良かったアメリカ人の友達に薦められて履修しました。教授が尊敬できる人で、ビジネスを新しい視点から見るように導いてくれました。**Drug test**、子供に対する広告、女性の社会進出、最低賃金制度、会社の社会的責任や政府の経済への介入についてなど興味深い内容ばかりでした。日本でも、同じようなビジネスを推進する中での問題が起こっているため、それと比較しながら授業を受けました。レポート中心のクラスで試験はありませんでした。

・ **The American Political System (PO 107)**

political science のクラスの中で一番ベーシックなクラスだったので履修しました。アメリカの政府がどのように構成されて、機能しているのかをメインに学びました。小レポートが12回、大レポートが3回、そして試験が3回ありました。覚悟して履修しないとイケないと思います。私は、サウジアラビアの友達と、アメリカ人のクラスメイトに助けをもらいながら何とか単位を取ることができました。コツコツすれば、いい結果が得られる教科ですが、逆に言うとサボってしまうとどうしようもなくなる教科です。

・ **Crit. Writing/Reading/Rsrch II (IN 151)**

教授によって授業展開は違うと思いますが、私のクラスでは、とにかく読むのが多くて大変でした。1週間に1冊読まないといけないときもあって、辛い時もありましたが、クラスメイトが助けてくれました。本を4冊読んで、4回の小テスト、4回のエッセイのテスト、そして最後のプロジェクトとして16枚のリサーチペーパーを書きました。読む力、聴く力、分析する力、書く力が養われました。

・ **Politics of Harry Potter (PO 360)**

アドバイザーの薦めと面白そうだったので履修しましたが、なかなか難しいクラスでした。ハリーポッターの魔法界にある、不平等な社会的扱いや権利、戦争、政府の役割を現実の世界と比べながら授業が進められました。ディスカッションやプレゼンテーションもあり、グループワークの多い授業でした。レポート3回、テストも3回ありました。このテストが、本当に難しかったです。履修するならば、相当の覚悟が必要です。

・ **University Seminar (IN 104)**

同志社女子の方が薦めてくれたので履修しました。大学の新生が履修する授業で、平等な社会について主に学びました。難しいクラスではありませんが、よく考えながら授業を受ける必要がありました。プレゼンテーションもあり、クラスメイトと協力する必要があります。レポートが何度かありました。

・ **Crit. Writing/Reading/Rsrch I (IN 150)**

seminar class と同じクラスメイトと履修するクラスでした。このクラスは、テストはありませんでしたが、レポートをたくさん書きました。ペアワークもあって、書く力が向上しました。また、クラスメイトと仲良くできるので、楽しく授業ができました。

・ **Intro to Anthropology (SO 120)**

かなり難しいクラスでしたが、よく分からないまま履修してしまいました。人がどのように進化していったのかを習いました。専門的なことも多くて、教科書を読むのが苦痛に感じることもありました。レポートが4回、テストが3回ありました。テストは、頭がクラクラするほど勉強しないといけない内容です。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

私は、クラブには所属していませんでした。でも、3・4回、ボランティア活動として老人ホームに行きました。特別なことはしませんでした。いい経験ができたと思います。私は、忙しくて、クラブに参加できませんでしたが、参加すれば新しい友達ができるだろうし、楽しいと思います。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

私は、ずっと寮に住んでいました。秋学期は、アメリカ人のルームメイトがいて、春学期は一人部屋でした。ルームメイトはいい人で私のプレゼンテーションの前日はいつも練習に付き合ってくれました。私の寮の Dolson にはインターナショナルフロアがあって、新留学生在一緒のフロアに住んでいました。隣には、仲のいい留学生の友達もいて、一緒に勉強をしたり、映画を観たりしていました。設備は悪くありませんが、地下にある洗濯機が度々故障していたのには困っていました。フランスからの留学生たちは Woods という学生アパートメントに住んでいました。もし、自分で料理するような自分だけのスペースがほしいなら、Woods に住むことを薦めますが、私は Dolson で住む方が楽しいと思います。Millikin では寮に住む生徒で1年目は必ず meal plan A か B を取らなくては行けなくて、私は B をとり週10回大学のカフェテリアに行っていました。味は、イマイチで、自分たちで作って食事することもありました。

⑨ **長期休暇の過ごし方**

長期休暇の冬休みは、色んなところを旅行しました。シカゴ、ニューヨーク、ボストン、ワシントン D.C.、フロリダのディズニーに行きました。特にニューヨークではブロードウェイのショーをたくさん観ました。ライオンキング、アラジン、レ・ミゼラブル、ママミーア、ウィキッド、オペラ座の怪人を観て、本当に感動しました。一緒に旅行していた台湾人の友達が演劇に興味があることもあって、盛り上がりながら観ることができました。また、私の叔母が韓国から遊びに来て、一緒に旅行できて楽しかったです。一生の思い出に残る旅行ができたと思います。シカゴでは、ゲストハウスに宿泊していて、そこでも友人を作ることができました。面白い出会いがたくさんある旅行でした。春休みは、トロントに行ってナイアガラ滝も見ることができました。アメリカは広いので見るものも多く、

文化や慣習もそれぞれの土地で違うので旅行するのはいい経験になりました。

⑩留学期間中の就職活動の取り組み

私は留学期間中、就職活動に関して何かすることはありませんでした。

II. 留学の感想

①留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学で得たものは、人との出会いです。今まで生きてきて、血のつながった家族だけが家族だと思っていましたが、私はアメリカでインターナショナルファミリーを作っていました。留学生のほとんどが同じ寮の同じ階に住んでいて、寂しいと感じることは全くありませんでした。困ったことがあるとみんなで支えて合って、いつも喜びを共有できるような仲のいい留学生でした。私は、娘のような妹のような存在で、みんなが可愛がってくれました。Dad、Brother、Sister と留学生の友達を呼んだり、Where are you, my daughter? とメッセージをくれたりして本当の家族のように過ごしていました。特に、サウジアラビア人の男の子、スペイン人の男の子、アメリカ人の男の子、インドネシア人の女の子は、週末よく一緒に過ごしていました。一緒にご飯を作って食べたり、勉強したり、映画を観たりする何気ない時間が一番楽しかったです。私は、カレー、コロッケ、お味噌汁などをみんなのために作りました。私は、料理が得意ではなかったのですが、インターネットでレシピを見ながら頑張って作っていました。一生懸命作った料理を、一緒に食べる時間はかけがえのない思い出です。勉強面でも助けてもらって、ビジネスのクラスで分からないことを教えてもらっていました。職場における drug test についてのレポートを書くときは、アメリカにある麻薬に対する意識などを教えてもらいながら、いいレポートが書けました。他にも、ジンバブエ出身の男の子と本当に仲が良くて、夜一緒に勉強したり、歌を歌いながら踊ったりしていました。彼は、英語の先生のように、私がうまく発音できない単語があると正しい発音を教えてくれたり、様々な言い回し表現を教えてくれたりしました。日本に帰国する前日に、彼が See you again という歌を歌ってくれて、ちょっと泣いてしまいました。また、何人かの留学生がお揃いのライオンのネックレスを持っています。ライオンの家族のように、離れていても強い絆を持って生きようというメッセージがこめられたそのネックレスは、私の宝物になりました。ニューヨークなどに旅行したのは、もちろん楽しかったのですが、それよりも私はアメリカの家族のような友達と共に過ごした時間が一番の思い出です。彼らがいなかったら、留学を楽しめなかったと思うし、心からアメリカで出会ったすべての人に感謝しています。

②留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学でつらいのは、自分の英語の乏しさに直面することです。覚悟はして、アメリカに留学していましたが、それでも最初は授業で何を言っているのか、友達が何を話しているのかよく分からず、授業で発言することができず、会話に入っていけませんでした。最初の2週間は悔しさと毎晩泣いていました。それでも負けない精神力が必要だったと思います。

また、自分の意見を伝える、自分を表現する力が大切なことがわかりました。授業の中で、銃社会の問題、麻薬、宗教などの答えのないような議論をしていました。その時に、戸惑わず自分がどう感じて、どう解決していくべきと考えるのか、言葉に出して表現しなければなりません。銃の所持について、私は断固反対の立場を最初はとっていました。日本には銃を持つ権利はありませんが、アメリカは **the right to bear arms** が一つの大切な権利です。クラスメイトの意見に流されず、自分の持つ意見を正直に伝えなければなりません。それが、なかなか難しかったです。ディスカッションの授業が苦痛でした。でも、ある時クラスメイトの女の子が、私の意見が興味深いと話してくれて、それから考えがガラッと変わりました。自分の意見が、人を動かしている気がその瞬間したのです。そのあと、自分が発言することが楽しくなって、授業でも発言することが多くなりました。また、クラスメイトの意見を聞きながら文化的価値観の違いや社会の現状を知ることができて、新しいアイデアを持てました。いい学び合いの場を持つことができました。

③文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化的価値観の違いに、ストレスを感じることは少なくありませんでした。私は、政治の授業をとっていたので、クラスメイトの考え方の違いにいつも驚いていました。その授業の中では、麻薬、特にマリファナ、銃の所持について考えを出し合う時間がありました。その時、アメリカの生徒の見方が私とは全く違って、興味深かったです。私が日本では銃を所持する権利がないと話すと、「日本人は自分をどう守るのか」と質問されました。アメリカと日本の大きな違いは、アメリカでは **individual** で日本では **community** が社会の中で重視されるということです。個々の幸福や自由が何より最優先されることに、最初は戸惑っていましたが、やはり「郷に入っては郷に従え」です。もちろん、理解できないことはいくつもありましたが、違う社会で生まれ育った人の価値観や考え方も尊重して生きなければならないことを忘れてはいけません。また、アメリカ人も他の国からの留学生も、何でもストレートに発言します。日本人の私からすると、言い方がきついように感じました。でも、私が何かを説明しようとする、日本人は回りくどくて何が言いたいのか分からないと言われることもありました。どのようにして自分を表現するのか、それがとても難しかったです。自分らしく、意見を共有する方法を見つけるというのが、留学において大きな課題になりました。

また、食べ物も習慣の違いを感じました。私の留学していたディケーターはアメリカの中西部で周りに海があって新鮮な魚を食べられる場所ではありませんでした。ディケーター生まれの友達も、魚を食べたことがない人もいて、魚を食べるという習慣があまりないようなところでした。私の大好物が魚なので、美味しい魚が食べられず正直辛かったです。日本食が恋しくなることが度々ありました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

①留学先大学の良かった点、悪かった点

私の留学先の大学は、Millikin University と言います。1901年創立された、プレスビテリアン教会系の大学でイリノイ州のディケーターにあります。初等教育学と芸術系の各専攻も充実しています。特に、音楽では声楽や楽器演奏以外に音楽経営学、音楽教育学、ミュージカル専攻、さらに演劇学も演技、監督・演出、技術・デザインとあって、人気のプログラムが揃っていました。私は、音楽や演劇に興味がなかったので授業はとっていませんでしたが、もし興味があるのなら履修するといいかもかもしれません。台湾からの留学生の子は、演劇のクラスを取っていてとてもそのクラスから学ぶことが多く刺激を受けていたみたいです。私の大学は小さいので、生徒と教授の距離が近いです。オフィスアワーに、教授の部屋に行ってレポートのアドバイスをもらったり、授業で分からないことを質問したりしていました。ほとんどのクラスが20人ほどのクラスで、和気藹々とした雰囲気の中で授業を受けることができました。また、日本からの留学生が少ないので、日本語を使わず英語にどっぷり浸かった生活を送れました。悪かったのは、田舎すぎて大学の周りに何もなかったことでした。

②日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

私が日本から持っていくべきだと思うものは、パソコン・洗濯ネット・化粧品・カメラ・日本のお茶・電子辞書・クレジットカードです。パソコンは、出来れば持参した方がいいです。ジンバブエの友達に、パソコンを持参してなくて、最初の2週間くらいは私のパソコンや友達のパソコンを借りていて、不便そうでした。洗濯ネットは、アメリカのスーパーなどで見当たらないので持参すべきです。私も、留学に行っていた先輩からアドバイスをもらって持っていきましたが、役に立ちました。化粧品は、自分に合ったものを持っていった方がいいです。また、肌が乾燥しやすくなることもあると思うので、そのケアのココナッツオイルとアロエのクリームを私は持っていきました。カメラは、思い出をつくるために持って行く方がいいと思います。日本のお茶は、私にとっては必需品でした。毎晩、友達とお茶を飲みながらお話をしたりして、リラックsgグッズでもありました。電子辞書は、持っていないと何かと困ると思います。クレジットカードは絶対持っていないといけません。出来れば、2枚持っていくことを薦めます。カナダのトロントに行った時は、アメックスカードが使えなかったですし、2枚の方が安心です。

③語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

スピーキング力は、向上したことは間違いありません。自信が更に加わった気もします。留学をしていた時に、英語毎日ノートというのを作っていました。毎日の生活で知った新しい単語や言い回しをチェックして、ノートにメモしていました。私の英語は、もっとナチュラルな英語になり、話すことが苦になりませんでした。細かい発音は、改善できてない部分もありますが、全体的にスピーキングはレベルアップできました。性格の面においては、もっと社交的になりました。どんな人とも友達になれたし、色んな人と話すのを楽しんでいました。私は、シャイなところもありましたが、それでも恥ずかしがることなく意見交換をしていました。ディスカッションが苦手でしたが、留学後ディスカッションは

どおもしろいものはないと思うようになりました。コミュニケーション能力、説得力が向上しました。

④これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

不可能なことは、ほとんどありません。もし、留学に行きたいなら、その目標に向かって諦めずに努力を積み重ねなければなりません。私は、社会システム学科ですが、問題なく留学することができました。辛いこともあるだろし、日本に帰りたいという瞬間がありました。でも、留学は私にとって素晴らしい経験になりました。私は、留学している間、新しい人に出会い、新しい考え方や見方を知って、今まで生きていた狭い世界から抜け出した気がしました。私は、大学で出会った友達が私の人生の中でかけがえのないものになりました。もう一度行きたいと思うような、学びの多い留学をすることができて、私は恵まれていると感じました。

これから留学をしようと思っている後輩の人たちには、色んなものを見て私以上に様々なことを吸収してきてもらいたいです。英語の先生をはじめ、両親、そしてすべての支えてくれた人に感謝の心を忘れず、留学を楽しんでほしいです。勉強は、想像以上に大変だと思いますが、挫けず頑張ってください。

IV. 将来の目標

①今後の進路、将来の目標・夢

アメリカの留学中には、アメリカの政治とビジネスについて勉強してきました。今後の進路は、はっきり決まっていますが、出版関係の仕事かメディアに関わる仕事に就きたいと思っています。留学で学んだことを生かしながら、働くことができれば嬉しいです。今、留学から帰ってきて、TOEICの勉強をしています。留学で学んだことを就職活動に活かすための努力をしています。また、大学院に行くことも考えています。学ぶことが好きなので、これからも新しいことを知っていきたいです。

V. 写真



アメリカ人、メキシコ人、台湾人、と私で天気のいい日は大学の近くの公園までお散歩していました。週末、夕食をとった後の軽い運動をかねて、よく公園に行っていました。秋には紅葉が綺麗なところで、リラックススポットでした。勉強の息抜きに、最高です！



Thanksgiving Dinner といって、学長、留学生と国際交流センターと一緒に食事するパーティーがありました。学長は、とても気さくな方で話もはずみ、いい経験になりました。ご飯も美味しくてたくさん食べてしまいました。この写真は、左からメキシコ、日本、ベネズエラ、国際センターのスタッフ、スペイン、パナマからの留学生です。留学生全体の数は少ないですが、色んな国からの留学生がいました。



春学期にあった学生主催の国際交流パーティーに参加しました。この時に、みんなで様々な国の料理を食べました。私は、メキシコの料理が特に好きでした。日本人は、写真を撮るときにピースサインばかりしてしまいます。私だけ、ピースしてしまっていて、今見ると恥ずかしいです。

H.Y.英語英文学科・2年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由（きっかけ、留学を考え始めた時期）

高校生の頃から英語が好きで英語科にいたので、いつかは留学をしたいとぼんやりと考えていました。大学に入ってから2年の秋スタートで行くのが就活期間とも被らず一番安く行けると思ったので、そのタイミングで行こうと入学直後に決めました。あとは周りの友達にも留学に行きたい子が多かったのも、その子たちと話して申し込み時期などの情報をすべて教えてもらい、後はとんとん拍子で決まっていきました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

英文科が受験料を負担してくれる TOEFL は全て受けました。TOEFL 初級の授業も取っていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

学校の授業をよく聞くようにしていました。私の学年では英文科の必修科目として総合英語という文法の授業があるのですが、授業を聞いているだけではあまりよく理解できなかったことでも、頭の片隅に置いておき現地に行って使っている人を見るとピンときたことがたくさんあります。何事も基礎が大事だなと思いました。あとはアメリカ人同士の会話に慣れようと思い、ゴシップガールを見始めていました。

④ 現地到着後

ミリキン大学は授業開始の二週間前に現地に着くように求められました。よって8月15日にアメリカに着き、空港には Center of International Education (CIE) の人が迎いの車を手配してくれました。ミリキン大学はシカゴ・オヘア空港から車で3時間くらいのところにあります。到着後はすぐにオリエンテーションが始まり、学校を案内してくれたりみんなでゲームをしたり、早く馴染めるよう様々なプログラムが用意されていました。英語が話せるかどうか以外の心配はいりませんでした。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

秋スタートだったので、正規授業も取りつつ、大学付属の English Language Center (ELC) に通っていました。ELC 専用の部屋が用意されており、パソコンが自由に使え、お茶もありソファもあり、まるで家のようにリラックスできました。ELC にいる間は ELC の先生がアドバイザーになるため、とても気軽に相談できました。たまにみんなでトランプをしたりジェンガをしたり、クリスマスツリーの飾りつけをしたりもしました。

◆ 授業内容、課題、試験

1クラス5人前後で授業が行われるので、必ず発言は求められます。しかしみんなが英語学習者なので、間違いも気にせず気軽に話すことができました。何か間違いがあれば先生が丁寧に教えてくださったので、英語を学ぶにはとても良い環境でした。授業内ではディス

セッションが多く行われていたので、相手の意見の聞き方や自分の意見の言い方も学ぶことができました。課題はたしかに多かったのですが決して無理な範囲ではなく、もしどうしても辛い場合はクラスのレベルを変えたり数を減らしたり、いろんなケースの相談に乗ってもらえます。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

図書館やパソコン室、音楽室やジムなど、たくさんのが無料で自由に使えます。普段の生活ではあまり運動ができないので、ジムはしょっちゅう使っていました。また、歌の授業も取っていたので、一人で練習する際は音楽室をよく利用させてもらっていました。

◆ 履修科目

・ University Seminar

現地の学生の1年生の必修科目です。アメリカ人との交流にもなるし比較的簡単に単位が取れる科目だということで勧められました。日本でいうところの道德の授業のようなもので、いまだアメリカに残る差別の話や、様々な問題点について学ぶことができました。

・ Critical Writing

英語のレポートの書き方、資料の調べ方など、基本的なことから教えてもらえるので、始めに取る科目としては一番お勧めです。また、University Seminarと同じく1年生の必修科目で同じ顔触れで行われるので、さらにアメリカ人との交流が持てました。

・ American Literature, 1900 to Present

英文科なので文学の授業を取ろうと思い、この科目に決めました。有名なところから初めて聞く名前まで、様々なアメリカ人作者の作品を読みました。ただ、私はどちらかと言うと言語学のほうに興味があったので、この科目と Approaches to Literature のテストとペーパーは少し苦痛でした。科目はしっかり考えて選ばないといけないなということを感じました。

・ Approaches to Literature

American Literature よりももっと基本的な文学の情報を学びました。詩の様々な形態や様々な文学作品を読みました。

・ Reading Roundtable

こちらも文学の授業ですが、クラスは10人以下で行われ、マジカルリアリズムや童話についての授業でした。最後のペーパーではマジカルリアリズムや童話に関する本を10冊紹介するというものでしたが、日本の童話の金太郎を紹介しました。

・ Class Voice

音楽科以外の人が取れる歌の授業でした。ミリキン大学は音楽で有名な学校なのでこの科目を選びました。同時に音楽の先生になりたい人も取っていて、その人たちに一对一で教えてもらえました。英語の勉強にもなるし、興味のあることも学べるので一石二鳥でした。また、何度か発表会もありとても緊張しましたが、そのお蔭で人前に立つことには強くな

りました。

・ Beginning Spanish

留学生の中でスペイン語話者が多かったので教えてもらえると思い、また同女でも半年間スペイン語を取っていたのでこの科目に決めました。一週間に4度授業があり、どの科目よりもテストやプレゼンテーションが多かったです。向こうで一番仲の良かった韓国人の子も一緒に取っていて、夜に寮でメキシコ人の子に教えてもらいながら必死に勉強したのは、今ではいい思い出です。

◆ 授業、レポート、定期試験

レポートやテストは日本のように学期末だけではなく、学期中でも何度かありました。そのたびにストレスを感じていましたが、普段からこつこつ勉強していれば、留学生でも乗り切れると思います。私はいつも一夜漬けだったので、その点は反省しています。

⑥ クラブ、課外活動、ボランティア活動

留学生用のクラブとアジア人用のクラブに所属していました。ただ、スポーツや音楽系のクラブはあまり活発ではなかったため、活動はあまりしていませんでした。

ELC にいた頃は何度かボランティアの機会がありました。何度か老人ホームを訪ねたり、近くの小学校にそれぞれの国の文化を紹介するプレゼンテーションをしに行ったりしました。どちらも外国人に慣れている人たちではないので英語を聞き取るのも話すのも苦労しましたが、幅広い年代のアメリカ人と触れ合ういい機会になりました。

⑦ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

ミリキン大学はみんな寮に住んでいました。インターナショナルフロアというものがあり、大半の留学生は一緒に階に住んでいます。また、有志のアメリカ人も一緒に住むので、基本的にはアメリカ人とルームメイトになります。英語も学べるし、ミリキンやその周辺についても教えてもらえるので、これはミリキンのとても良い特徴の一つだと思います。寮に住むという経験は初めてでしたが、男の子も女の子もみんな一緒に生活するので、まるで一つの家族みたいでとても楽しかったです。希望すればホストファミリーをつけてもらうこともできます。

⑧ 長期休暇の過ごし方

Fall Break はMBC に遊びに行き、Thanksgiving はシカゴ、Spring Break はトロントに行きました。冬休みは1か月と長く、成人式もあったので一度日本に帰りました。ミリキンは長期休暇中でもだいたい寮は閉まりませんし、人によってはホストファミリーの家にも泊まれるので、休暇中でも大学に残ることができます。

⑨ 留学期間中の就職活動の取り組み

就活期間中ではなかったため何もしていません。ただ、せっかくの留学なので、この経験をどのように将来に役立てることができるかは時々考えていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

みんなで一緒に暮らすというのはとても楽しかったです。暇な時はランプをしたりしました。寮のイベントの一環で各国の料理を作って持ち寄ることもありました。みんな同じところに住んでいるので、何かあればすぐに(何もなくても)部屋に押しかけてくることもありましたが、それも寮ならではのいい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

他人との共同生活は初めての経験だったので、始めは馴染めずに苦労したことの方が多かったです。特に最初の学期と後半の学期ではルームメイトが変わり、まるきり正反対の子だったので、一緒に暮らすのにとっても戸惑いました。しかし馴染むとお互いのことを一番良く知る存在になり、一番の理解者になれます。また、寮で一番辛いのは、一人になりたい時に一人になる場所がないことでした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ご飯のバラエティの少なさです。これはアメリカ全体の文化というよりはミリキン大学周辺の土地柄だと思うのですが、どの料理も焼くか生かの選択肢しかないので、食べ物に関してはすぐにうんざりしてしまいました。近くにアジアンスーパーもないので、これから行かれる方は日本食を手に入れるなんらかの手段を考えることをおすすめします。私は向こうで安い炊飯器を購入し、カリフォルニア米ですが、それを焚いて食べていました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

ミリキン大学の一番良い点は、アメリカ人との距離が近いことだと思います。交流の場はたくさんありましたし、校内を歩いているだけでも留学生に興味のある人は声をかけてくれカフェテリアに誘ってくれるということもありました。

悪い点は、大学周辺があまり綺麗ではないことだと思います。周辺には野生のりすがたくさん住んでいてとてもかわいいのですが、車に轢かれているところも何度か見ました。治安も悪いと言われて最初はとても不安でしたが、その点はみんな気を付けていたので、暗くなってから外を歩かないといけない時は必ず誰かが付き添ってくれていました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン、洗濯ネット、現金、浴衣、日本食、自分の趣味となるものです。一年は長いので息抜きとなるものも必要だと思いました。また、クレジットカードは可能なら2枚あった方がいいと思います。私が始めに持って行っていったのは制限があるものだったので、たまにとまってしまい、苦労しました。周辺は何もないところなので、インターネットで買い物をするのがよくあると思うのですが、その場合は現金を持っていてもクレジットカードがなければ役には立ちませんでした。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

異国で一年暮らしたことで自信がつき、何事も思ったことをはっきりと話せるようになりました。これは就活の面接でも役に立つと思いますし、実際アルバイトの面接でもハキハ

キと話すところに好感を持ってもらえました。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

ELC や CIE のスタッフの人たちを見て、私自身も将来、一人不安の中にいる留学生の拠り所となれるような職業につきたいと思いました。日本語教育にも興味を持ち、来学期から日本語を副専攻することに決めました。

V. 写真



ELCの卒業式での様子です。ELCは本当に暖かくて、到着後はとても不安だったのですが、とても安心できる場所になりました。